

科目名	生命倫理学						
科目名(英)	Bioethics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	寺田 篤史		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	脳死・臓器移植や安楽死・尊厳死、人工妊娠中絶や生殖補助医療など、医療における倫理上の問題を引き起こす様々な事例において、どのような議論が行われているかを検討する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					上記のような問題提起に対し、自己決定の尊重、生命の尊厳人権といった倫理的な価値やそれらに関する様々な考え方を理解する。	
	○					こうした問題の検討を通じて自身の拠って立つ 価値観を探りつつ自らの意見を獲得する。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:波多江伸子、寺田篤史、脇崇晴『考えよう！生と死のこと—基礎から学ぶ生命倫理と死生学』木犀舎、2016 参考図書:適宜プリントを配布する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	生命倫理・倫理学とは何か				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	医療は何のためにあるのか—自己決定の尊重とパターンリズム				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	生命倫理・倫理学とは何か				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	無駄な延命治療は中止すべきか—尊厳死の問題				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	死を選択する権利を認めるべきか—安楽死の問題				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	よい死とは何か—緩和ケアと安楽死・尊厳死				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	2.「いのちの始まり」の倫理学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	子供を作る選択肢は多い方がよいか—精子・卵子・胚の提供と代理出産				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	産まれる子を選ぶ権利を認めるべきか—出生前診断と選択的中絶				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	したい人がいるなら何でも認めるべきか—着床前診断・遺伝子治療・エンハンズメント				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	3.「いのちのひろがり」の倫理学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	なぜ脳死者の臓器を利用してよいのか—臓器摘出の条件(オプトインとオプトアウト)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	臓器提供は無償でないといけないのか—提供への対価の是非				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	授業全体の振り返り				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
15	レポート作成						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		◎				40%
	レポート	◎	○				60%
履修上の注意	この授業では、倫理学上の問題について学生自身が考えることを目的とします。そのため、授業への主体的な参加が求められます。考えを深めるためにペアやグループで意見交換する時間を多く設ける予定です。講義パートも対話的に進行します。非常に素朴なものから社会制度に関わるものまで様々な問いを投げかけるので、積極的にリアクションしてください。また、学生の興味に応じて、授業中に扱う問題を前後させたり、内容を変更することがあります。						

科目名	情報処理						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	谷口 久美子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を学習し、情報を正確に加工・編集できる技術を習得する。レポート・発表会資料等の作成時に適切な文書作成、図表・グラフの活用ができるようになる。						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○	○			キーボード入力が正確でスピーディに行えるようになる。	
	○	○	○			Wordを使用してレポートや論文が作成できるようになる。	
	○	○	○			Excelを使用して表計算機能ができるようになる。	
	○	○	○			PowerPointを使用してスライド・資料作成ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:300時間アカデミック 情報リテラシー office2016 実教出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Word 文書作成 (ワードの基本操作)			入力練習・復習		
	2	ビジネス文書作成 (社内・社外文書)			入力練習・復習		
	3	図表の扱い (ポスター・計画表作成)			入力練習・復習		
	4	編集操作 (演習問題)			入力練習・復習		
	5	ファイル管理 (ファイルの種類・ファイルの整理)			入力練習・復習		
	6	Power Point プレゼン資料作成 (パワーポイント基本操作)			入力練習・復習		
	7	スライド作成ポイント (表現技法)			入力練習・復習		
	8	発表用スライド作成			入力練習・復習		
	9	Excel 表作成 (エクセルの基本操作)			入力練習・復習		
	10	表の新規作成・編集操作			入力練習・復習		
	11	計算式 (演算子・基本的な関数)			入力練習・復習		
	12	計算式 (応用的な関数)			入力練習・復習		
	13	グラフ作成・データベース機能			入力練習・復習		
	14	スケジュール表作成 (日付関数の利用)			入力練習・復習		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記/実技)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記/実技)	○	○	◎	○		70%
	小テスト	○	○	◎	○		20%
	レポート	○	○	◎	○		10%
履修上の注意							

科目名	医学英語						
科目名(英)	Medical English						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	片岡 彩子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	英文読解に慣れるとともに、最新の医学情報に触れることで、医学への興味を高める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				英文の構造を理解し、内容を理解することができる	
	○	○				医療関連の基本語彙を理解することができる	
	○	○				トピックについて、自分の考えを述べるができる	
テキスト・教材 参考図書	使用しない。毎回、英文を配布します。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1. Learn another language to delay three dementias (1)			英単語を調べておくこと		
	2	1. Learn another language to delay three dementias (2)			英単語を調べておくこと		
	3	2. Paralyzed man uses mind control to walk again (1)			英単語を調べておくこと		
	4	2. Paralyzed man uses mind control to walk again (2)			英単語を調べておくこと		
	5	2. Paralyzed man uses mind control to walk again (3)			英単語を調べておくこと		
	6	3. World's first baby born with new "3 parent" technique (1)			英単語を調べておくこと		
	7	3. World's first baby born with new "3 parent" technique (2)			英単語を調べておくこと		
	8	3. World's first baby born with new "3 parent" technique (3)			英単語を調べておくこと		
	9	4. Parkinson's disease may start in the gut and travel to the brain (1)			英単語を調べておくこと		
	10	4. Parkinson's disease may start in the gut and travel to the brain (2)			英単語を調べておくこと		
	11	5. The world needs to talk about child euthanasia (1)			英単語を調べておくこと		
	12	5. The world needs to talk about child euthanasia (2)			英単語を調べておくこと		
	13	5. The world needs to talk about child euthanasia (3)			英単語を調べておくこと		
	14	5. The world needs to talk about child euthanasia (4)			英単語を調べておくこと		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	毎回、必ず予習をしてきてください。						

科目名	接遇講座						
科目名(英)	Skills for the Hospitality						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	本田 恵子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	医療従事者としての接遇の心構えとコミュニケーションを学ぶ						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			日常生活上での正しい言葉遣いと社会人としての立ち振る舞いを学び、まずは挨拶や号令の際など、学校生活の中で実践することが出来る。	
	○	○				チームワークやコミュニケーション能力の向上について学び、グループワークなどで活かせる。	
	○		○	○		電話対応・名刺の扱い方・手紙の書き方を改めて学び、臨床現場への訪問連絡やお礼状などを郵送する際に活用することが出来る。	
	○	○		○		グループ等での演習を通して、自己の人と関わる際の特性を知り、好感を持たれる人との接し方が出来る様になる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:ケア・コミュニケーション(ウィネット) 参考文献:ビジネスマナー						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己紹介(グループからスピーチ)				自己紹介のスピーチ準備	
	2	自己紹介(グループからスピーチ)				自己紹介のスピーチ準備	
	3	接遇とは・コミュニケーションとは				教科書にて予習	
	4	交流分析(自己の特性を知る)				教科書にて復習	
	5	2-1 好感・信頼感を高めるコミュニケーション 1				教科書にて予習	
	6	2-1 好感・信頼感を高めるコミュニケーション 1				教科書にて復習	
	7	2-3 敬意を伝えるコミュニケーション				教科書にて予習	
	8	2-3 敬意を伝えるコミュニケーション				教科書にて復習	
	9	2-2 好感・信頼感を高めるコミュニケーション 2				教科書にて復習	
	10	4-1 チームワークとコミュニケーション				教科書にて予習	
	11	4-2 建設的でさわやかに対話する				教科書にて予習	
	12	電話対応・名刺の扱い方・手紙の書き方				教科書にて予習	
	13	電話対応・名刺の扱い方・手紙の書き方				教科書にて復習	
	14	電話対応・名刺の扱い方・手紙の書き方				教科書にて復習	
15	まとめ						
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	実習レポート	◎	○		◎		20%
履修上の注意	授業内容の順番を変更する場合あり。						

科目名	解剖学						
科目名(英)	Anatomy						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	小川 皓一		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	解剖学の学習に必要な用語を学ぶ。人体を構成する細胞・組織の構造と機能を理解する。運動器系(骨格、関節・靭帯、筋)の構造を理解する。循環器系の構造を理解する。内臓(呼吸器系、消化器系)の構造・機能を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					骨・関節・靭帯に関する構造、部位の名称、特徴を理解できる。	
	○					骨格筋の構造、頭部・顔面・体幹・上肢・下肢の位置や名称を理解できる。	
	○					循環器系における必要知識を理解できる。	
	○					呼吸器・消化器系における必要知識を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1. PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁 監修 廣川書店 2. あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫 訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献:1. ネット解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和 訳 南江堂 2. 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助 原著 南山堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	解剖学概論:人体の構成、解剖学用語、細胞の構造と機能			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	組織学総論①:上皮組織、支持組織(結合組織) 組織学総論②:支持組織(軟骨・骨・血液)、筋組織			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	組織学総論③:神経組織、骨格系①:総論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	骨格系②:頭蓋骨、脊柱 骨格系③:胸郭、上肢帯の骨			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	骨格系③:胸郭、上肢帯の骨 骨格系⑤:自由下肢の骨			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	関節と靭帯①:総論、頭蓋骨の連結 関節と靭帯②:脊柱の連結、胸郭の連結			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	関節と靭帯③:上肢帯・自由上肢の連結 関節と靭帯④:下肢帯・自由下肢の連結			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	筋系①:総論、頭部・顔面の筋 筋系②:舌・口蓋・咽頭・喉頭の筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	筋系③:背部の筋 筋系④:体幹の筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	筋系⑤:上肢の筋 筋系⑥:下肢の筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	循環器系①:血管の構造、心臓 循環器系②:動脈系			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	循環器系③:静脈系 循環器系④:胎生期の循環、リンパ系			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	呼吸器系:鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、胸 消化器系①:消化管の一般構造、口腔、食道			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	消化器系②:胃、小腸、大腸 消化器系③:肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎				100%
履修上の注意							

科目名	機能解剖学演習						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	峰岡 哲哉		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	本科目は、理学療法士になるための解剖学の基礎となる科目である。骨の特徴的な構造を覚え、体表から触れることができる骨のランドマークを触知できる技術の習得を目指していく。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		代表的な体表部位と運動方向についての解剖学用語で答えることができる。	
		○	○			体表から触診を通して、主要なランドマークが触れることができる。	
	○	○				骨をイメージでき、図示することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1. 機能解剖学オリジナルテキスト 2. 骨単(語源から覚える解剖学英単語集)エヌ・ティー・エス 参 考文献:1. プロメテウス解剖学アトラス 坂井 建雄 医学書院 2. 人体解剖 基礎が解る事典 竹内 修 二 東西社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目オリエンテーション				課題と小テストにて理解を進める。	
	2	機能解剖学概論①「触れる」(触診)とは? 目的・利点・注意事項など				課題と小テストにて理解を進める。	
	3	機能解剖学概論②関節形態と動きの関係				課題と小テストにて理解を進める。	
	4	機能解剖学―上肢① 肩甲骨・肩関節				課題と小テストにて理解を進める。	
	5	機能解剖学―上肢② 肘関節・前腕				課題と小テストにて理解を進める。	
	6	機能解剖学―上肢③ 手関節・手指				課題と小テストにて理解を進める。	
	7	機能解剖学―上肢まとめ(小テスト)				課題と小テストにて理解を進める。	
	8	機能解剖学―体幹① 頸部・胸部				課題と小テストにて理解を進める。	
	9	機能解剖学―体幹② 腰部・骨盤帯				課題と小テストにて理解を進める。	
	10	機能解剖学―体幹まとめ(小テスト)				課題と小テストにて理解を進める。	
	11	機能解剖学―下肢① 股関節				課題と小テストにて理解を進める。	
	12	機能解剖学―下肢② 膝関節				課題と小テストにて理解を進める。	
	13	機能解剖学―下肢③ 足関節・足部				課題と小テストにて理解を進める。	
	14	機能解剖学―下肢まとめ(小テスト)				課題と小テストにて理解を進める。	
15	前期範囲のまとめ				前期講義内容をまとめのプリントにて理解を図る。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(実技含む)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技含む)	○	○	○			70%
	小テスト	○	○				30%
履修上の注意							

科目名	生理学						
科目名(英)	Physiology						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	坂口 博信		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	人体についての基礎知識は医療に携わるひとには欠かせない。生理学は、人体の生命現象の仕組み(機能)を理解するための学問であり、医学の中で、最初に学ばねばならない基礎中の基礎となる科目である。本講義では、人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる	
	○	○				人体の各器官の正常な機能が説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:カラー図解 新しい人体の教科書 上・下巻 講談社 ブルーボックス						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	生理学序論				授業ノートを作成する。	
	2	細胞と内部環境				授業ノートを作成する。	
	3	末梢神経系 脳神経、脊髄神経、自律神経				授業ノートを作成する。	
	4	血液 酸-塩基平衡				授業ノートを作成する。	
	5	生体防御 一免疫一				授業ノートを作成する。	
	6	循環				授業ノートを作成する。	
	7	呼吸				授業ノートを作成する。	
	8	消化と吸収				授業ノートを作成する。	
	9	栄養と代謝				授業ノートを作成する。	
	10	腎臓と排泄				授業ノートを作成する。	
	11	内分泌				授業ノートを作成する。	
	12	性と生殖				授業ノートを作成する。	
	13	筋の収縮 I 骨格筋				授業ノートを作成する。	
	14	筋の収縮 II 心筋・平滑筋				授業ノートを作成する。	
15	まとめ				授業ノートを作成する。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	人間発達学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	松岡 美紀		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	生命の誕生から乳幼児期・学童期・青年期・成人期を経て死に至るまでの量的・質的 変化を人間発達の観点から概観し、理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達とは何か。人と動物の違いについて説明できる。	
	○	○				感覚・知覚・認知の違いについて説明できる。	
	○	○				言葉の発達、心の理論について説明できる。	
	○	○				原始反射、姿勢反射とは何か、説明できる。	
○	○				0か月～12か月の粗大運動の発達について大まかに説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書: イラストでわかる人間発達学 上杉雅之監修 医歯薬出版 参考文献: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野シリーズ「人間発達学」(医学書院)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション・発達の概念 人と動物の違い			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	2	発達概念 発達とは? 発達理論について			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	3	感覚・知覚・認知の発達	感覚って何だろう? その始まり		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	4	言語の発達	言語始まり 共同注視とは		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	5	心の発達	心の理論とは何か		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	6	原始反射と姿勢反射①	原始反射とは何か		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	7	原始反射と姿勢反射②	原始反射の種類		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	8	原始反射と姿勢反射③	姿勢反射とは		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	9	粗大運動の発達①	胎児期・新生児期の発達		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	10	粗大運動の発達②	3か月までの発達		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	11	粗大運動の発達③	6か月までの発達		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	12	粗大運動の発達④	9か月までの発達		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	13	粗大運動の発達⑤	12か月までの発達		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	14	発達理論(エリクソン・ピアジェ・フロイト)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)グループでの課題発表を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	レポート	○	○				20%
	発表	◎	○		◎		20%
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション概論						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	木村 孝		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	リハビリテーションという言葉は、一般社会でもよく使われるようになってきている。通常、障害に対する機能回復のための治療・訓練として用いられてきている。しかし、この解釈は、リハビリテーションの中の極めて狭い領域となっている。リハビリテーションにおける理念・背景をリハビリテーションの特徴を含め紹介する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				医療人としての倫理を歴史的背景に基づいて説明できる	
	○	○				リハビリテーションの定義と歴史を含んだ語源を説明できる	
	○	○				リハビリテーションの5分野と4つの期をそれぞれの特徴と関連性を説明できる	
	○	○				ICFについてICIDHと比較して特徴と相違について説明できる	
	○	○				他職種連携の意味と重要性をそれぞれの職種の役割を踏まえて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1)PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション概論 椿原彰夫編 診断と治療社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	医療倫理				資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。	
	3	リハビリテーションの歴史				資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。	
	4	リハビリテーションの5分野と4つの期				資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。	
	5	ICIDHとICF				資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。	
	6	ADLとIADL				資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。	
	7	地域包括ケアシステム・他職種連携				資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。	
	8	作業療法士とリハビリテーション				職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。	
	9	言語聴覚士とリハビリテーション				職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。	
	10	看護師とリハビリテーション				職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。	
	11	医師とリハビリテーション				職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。	
	12	社会福祉士とリハビリテーション				職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。	
	13	世界のリハビリテーション				職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。	
	14	まとめ					
	15	定期試験					
評価方法	(1)授業の中でグループ発表を実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					70%
	レポート		○				15%
	発表		○				15%
履修上の注意	1)グループワークで理解を深めます。2)各職種の講義については時間・日程変更または内容変更があります。						

科目名	理学療法学概論						
科目名(英)	Introduction to physical therapy						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	今山 隆士		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	①理学療法士についてその歴史や関係法規・諸制度を概観しながら理解を深める。 ②理学療法士の職域を知り、各々の領域における思考過程や規範・哲学を概観しながら理解を深める。 ③リハビリテーション活動に参画する一専門職としての理学療法士の位置づけ、役割、対象疾患、関連職種などを理解する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことが出来る。	
	○	○		○		医療の中の理学療法の位置づけを説明できる。	
	○	○		○		理学療法の視点から、障がい者の日常生活上のデメリットを説明できる。	
	○	○				理学療法の評価・治療の流れを説明できる。	
	○	○		○		今後の理学療法に必要なことをディスカッションできる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:高橋精一郎・千住秀明:理学療法学概論 第4版. 神陵文庫, 2013						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション / 対人援助の仕事とは① コミュニケーションの重要性			教科書の予習しておく。		
	2	対人援助の仕事とは② 指導と援助			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習して		
	3	理学療法総論 理念・歴史・概要・関係法規・諸制度			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習して		
	4	リスクマネジメント			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習して		
	5	理学療法の流れ(PTプロセスとは?)			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習して		
	6	理学療法の基盤 WHO健康の定義・ICD・ICIDH・ICFの概念			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習して		
	7	座談会① テーマ:白衣を着る意味			教科書の予習しておく。		
	8	理学療法体系① vital sign グループ演習①			教科書の予習しておく。 実技の復習しておく。		
	9	理学療法体系② 運動療法 グループ演習②			教科書の予習しておく。 実技の復習しておく。		
	10	理学療法体系③ 物理療法 グループ演習③			教科書の予習しておく。 実技の復習しておく。		
	11	理学療法の領域 EBM(EBPT)とNBM			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習して		
	12	座談会② テーマ:症例発表会			授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	座談会③ テーマ:上級生との交流会			学校生活の仕方、日常の勉強の仕方を考えておく。		
	14	テーマ:3年後の自分			授業資料のまとめを復習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中でまとめレポートを実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	◎		○		100%
履修上の注意							

科目名	評価学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	牧井 昭憲		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	1. 関節可動域の臨床的意義を知り、実際に施行できる 2. 筋力測定の意義を知り実際に施行できる						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		○			関節可動域の臨床的意義を知り、実際に施行出来る。	
	○		○			筋力測定の意義を知り、実際に施行出来る。	
		○		○		安全に配慮して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1) 新・徒手筋力検査法 第9版(協同医書出版) 2) 骨格筋の形と触察法 改訂第2版(大峰閣) 3) リハビリテーション基礎評価学 第1版(羊土社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	運動機能検査 関節可動域測定 復習			教科書の予習しておく。		
	2	運動機能検査 筋力 総論			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
	3	運動機能検査 MMT (肩関節:伸展、外転)、運動機能検査 MMT (肩関節:水平外転、水平内転)			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
	4	運動機能検査 MMT (肩関節:外旋、内旋)、運動機能検査 MMT (肘:屈曲、伸展)			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
	5	運動機能検査 MMT (前腕:回外、回内)、運動機能検査 MMT (手:屈曲、伸展)			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
	6	運動機能検査 MMT (手指:MP屈曲伸展、IP屈曲伸展、内転外転)、運動機能検査 MMT (母指:MP/IP屈曲伸展、外転、内転、対立運動)			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
	7	運動機能検査 MMT (肩甲骨:外転と上方回旋、挙上、内転)、運動機能検査 MMT (肩甲骨:下制と内転、内転と下方回旋、下制)			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
	8	運動機能検査 MMT (股:屈曲、股屈曲・外転・膝屈曲位での外旋)、運動機能検査 MMT (股:伸展、外転)			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
	9	運動機能検査 MMT (股:股屈曲位からの外転、内転)、運動機能検査 MMT (股:外旋、内旋)			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
	10	運動機能検査 MMT (膝:屈曲、伸展、足:底屈)、運動機能検査 MMT (足:背屈ならびに内がえし、内がえし、底屈を伴う外がえし)			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
	11	運動機能検査 MMT (母趾と足指:MP屈曲、IP屈曲)、運動機能検査 MMT (母趾と足指MP/IP伸展)			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
	12	運動機能検査 MMT (頭部伸展、頸部伸展、頸部複合伸展)、運動機能検査 MMT (頭部屈曲、頸部屈曲、複合屈曲・頸部回旋)			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
	13	運動機能検査 MMT (体幹:伸展、骨盤挙上)、運動機能検査 MMT (体幹:屈曲、回旋)			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
	14	実技総復習			教科書の予習しておく。 授業内容、実技の復習しておく。		
15	総まとめ			これまでの授業資料を復習しておくこと。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)発表を実施する。(3)定期試験(筆記、実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記、実技)	◎	○	◎			80%
	小テスト			○	○		10%
	発表		○	○			10%
履修上の注意	* 定期試験には実技試験も含まれます。						